

## 馬 埋蔵文化財最新発掘調査情報 馬

◆朝霞市では、現在69か所の遺跡が存在しています。

川や緑が多く都心にも近い朝霞市においては、宅地造成やマンション建設など大規模開発工事が多いため、記録保存のための発掘調査が数多く行われています。そのなかで、最新の調査成果をお伝えします。



にしくぼ・みやまいせき

### 西久保・宮山遺跡第23・24地点

#### 第23地点

調査地：朝霞市浜崎三丁目地内

期間：令和4年8月30日～9月16日

調査面積：75.36㎡

#### 第24地点

調査地：朝霞市浜崎三丁目地内

期間：令和4年10月14日～11月15日

調査面積：75.42㎡



西久保・宮山遺跡第23・24地点 位置図

#### 第23地点

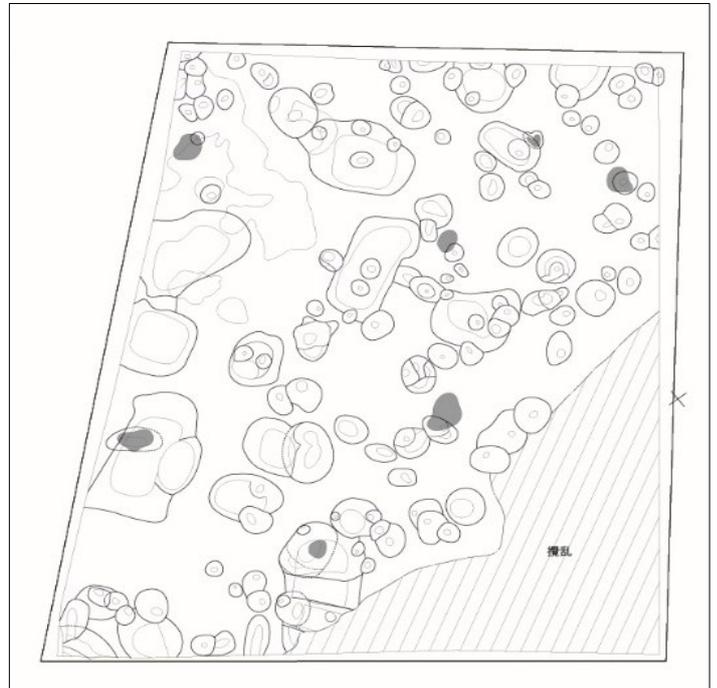
◆今回の調査では、土坑、ピットが確認されました。

遺物は、縄文土器、土師器、須恵器、陶器等が出土しました。

発掘調査は、土坑・ピットあわせて130基近い遺構が検出しましたが、非常に部分的な調査かつ後世のかく乱も著しく、また各遺構からの出土遺物もなく、時期や時代を特定するのが非常に難しい調査でした。

しかし、覆土（遺構に埋まっていた土）の様相や周辺の発掘調査結果等から、大半は中世以降の土坑やピットと考えられ、またピット等の検出（配列）状況から、掘立柱建物跡が建つ可能性も考えられます。それを示すかのように、15世紀代のかかわり（素焼土器）等が遺構確認面から出土しています。

その他にも、古くは縄文土器から新しい時代のもので17世紀代の陶器のなども出土しており、狭小の発掘調査ではありましたが、古来より人々の生活が連綿と営まれていたことがうかがえました。



第23地点 遺構検出状況

第24地点

◆今回の調査では、住居跡、土坑、ピット等が確認されました。

遺物は、縄文土器、弥生土器、土師器、須恵器、石器等が出土しました。

住居跡は全部で3軒、うち2軒（1J・3J）はほぼ完全な状態で、残りの1軒（2J）は、他の住居跡（1J）に壊される形で検出しました。

1Jは、ほぼ正方形を呈しており、住居の施設としては、住居跡を全周する壁溝と、住居跡北東隅から周囲に凸帯を巡らした貯蔵穴と思われる土坑のみでした。出土遺物から古墳時代後期の住居跡と考えられますが、柱穴と思われるピットやカマドとしてわかる痕跡は確認できませんでした。

2Jは1Jに壊される形かつ、その大半は調査区外へと広がり、全容は把握できませんでした。一部、焼土が範囲として検出しましたが、炉跡と捉えるには貧弱すぎたため、実際の炉跡は調査区外に存在していると考えられます。また、柱穴と考えられるピットや壁の周囲に溝を巡らす壁溝も確認されませんでした。1Jに壊されているということは、1Jより早く作られていたということであり、それを証明するかのように弥生時代後期の土器片が住居跡内より出土しました。

3Jは、住居の施設として柱穴と思われるピットが4基、また中央に炉跡も設置されていました。貼り床と思われる硬化面も壁面近くまで広がっており、また南東壁側に凸帯を巡らす土坑も確認されました。

第23地点より少しだけ北上した当地点ですが、その様相は全くと言っていいほど違っており、第24地点では弥生時代～古墳時代の人々の生活を垣間見ることができました。

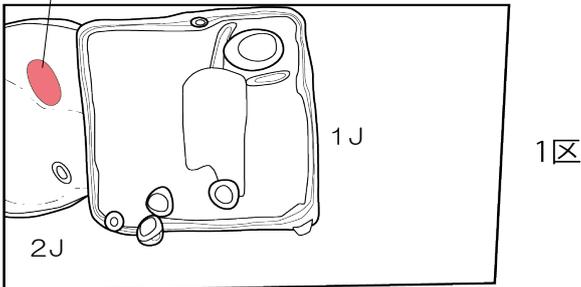


1J検出状況(完掘)

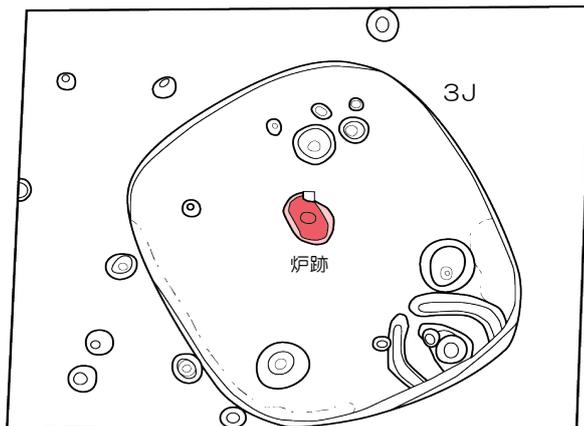


2J検出状況(完掘)

焼土範囲



3J検出状況(完掘)



第24地点 遺構検出状況

2区

ここの調査地点のまわりからも同じ時代の住居跡がたくさんでるみたい。ムラがあったのかな。



©むさしのフロントあさか